

I 自然公園等利用者数の概要

1 自然公園利用者数の推移

図 I-1・表 I-1 は、昭和 25 年から令和 5 年までの国立公園、国定公園及び都道府県立自然公園の利用者数を示したものである。

自然公園全体の利用者数をみると、昭和 50 年から昭和 58 年は、おおむね横這いの状況であった。昭和 59 年から徐々に増加の傾向を示し、平成 3 年には 10 億人を超えた。その後は減少傾向にある。令和 2 年は新型コロナウイルスの蔓延により全国的に大きく減少した。令和 5 年の利用者総数は、前年に比べ 15.6% 増の 7 億 8,916 万人であった。

年間利用者数を各公園の種類別にみると、34 の国立公園利用者数が 3 億 2,269 万人（対前年比 19.5% 増）、58 の国定公園利用者数が 2 億 5,312 万人（同 13.6% 増）、311 の都道府県立自然公園利用者数が 2 億 1,336 万人（同 12.3% 増）となっている。

2 利用者数の多い国立公園

表 I-2 は、全国 34 の国立公園のうち、利用者数の多い 10 公園についてとりまとめたものである。

最も利用者数の多かったのは富士箱根伊豆の 1 億 1,226 万人で、国立公園利用者数全体の 34.8% を占めており、以下、瀬戸内海 4,157 万人、上信越高原 1,744 万人の順となっている。

これらのうち上位 10 公園についてみると、その合計利用者数は 2 億 5,425 万人となり、国立公園利用者数全体の 78.8% を占めている。

なお、上位の国立公園は、都市部から比較的交通の便の良い場所に位置している。

3 利用者数の多い国定公園

表 I-3 は、全国 58 の国定公園のうち、利用者数の多い 10 公園についてとりまとめたものである。

最も利用者数の多かった国定公園は、琵琶湖の 3,386 万人で、国定公園利用者数全体の 13.4% を占め、以下、玄海 2,636 万人、金剛生駒紀泉 1,525 万人の順となっている。

これらのうち上位 10 公園についてみると、その合計利用者数は 1 億 5,292 万人となり、国定公園利用者数全体の 60.4% を占めている。

なお、上位の国定公園は、国立公園と同様に都市部から比較的交通の便の良い場所に位置している。

4 国立公園、国定公園利用者数の増減

(1) 利用者数が増加した国立公園

利用者数が前年と比較して増加した国立公園は 32 公園で、増加率が高かった 3 公園は順に、南アルプス（対前年比 2927.8% 増）、白山（同 76.8% 増）、奄美群島（同 51.5% 増）となっている。

〔表Ⅰ－４－（１）参照〕

（２）利用者数が減少した国立公園

利用者数が前年と比較して減少した国立公園は１公園で、足摺宇和海（同１３．１％減）となっている。

※やんばるは、期限までに報告がなかったため増減については不明。

〔表Ⅰ－４－（２）参照〕

（３）利用者数が増加した国定公園

利用者数が前年と比較して増加した国定公園は５３公園で、増加率が高かった３公園は順に、祖母傾（対前年比５２．７％増）、壱岐対馬（同４１．０％増）、厚岸霧多布昆布森（同３９．１％増）となっている。

〔表Ⅰ－４－（３）参照〕

（４）利用者数が減少した国定公園

利用者数が前年と比較して減少した国定公園は５公園で、減少率が高かった３公園は順に、早池峰（対前年比３２．５％減）、室戸阿南海岸（同１５．１％減）、三河湾（同３．３％減）となっている。

〔表Ⅰ－４－（４）参照〕

５ 利用者数の多い都道府県立自然公園

表Ⅰ－５は、全国３１１の都道府県立自然公園のうち、利用者数の多い上位１０公園についてとりまとめたものである。

最も利用者数の多かった公園は大宰府（福岡県）の１，２２８万人であり、以下、日本平・三保の松原（静岡県）の１，１８７万人、水郷（三重県）の８３０万人となっている。

Ⅱ 自然公園利用者数調

この調査は、暦年毎の自然公園の利用者数を把握するため、都道府県からの報告に基づいて集計したものである。〔表Ⅱ－１～８参照〕

なお、国立公園内におけるビジターセンター等施設の入館者数は、主に環境省地方環境事務所からの報告によりとりまとめたものである。〔表Ⅱ－９参照〕

Ⅲ 長距離自然歩道利用者数調

長距離自然歩道は、優れた自然環境を有する自然公園や文化財などを結ぶ長距離にわたる歩道で、自然や歴史などを訪ねることにより、健全な心身を育成し、自然保護に対する理解を深めることを目的としたものである。

この調査は、自然公園と同じく都道府県からの報告に基づき、暦年毎の各長距離自然歩道の利用者数を集計したものである。

令和５年の長距離自然歩道利用者数は６，６８３万人であり、対前年比１１．０％増となっている。各自然歩道別に利用者数をみると、北海道２６万人（対前年比１．６％

増) (※)、東北764万人(対前年比9.7%増)、東北太平洋岸12万人(前年度まで報告なし)、首都圏766万人(同8.5%増)、東海654万人(同29.1%増)、中部北陸939万人(同13.7%増)、近畿2,124万人(同5.5%増)、中国309万人(同5.7%増)、四国234万人(同1.1%減)、九州855万人(同18.7%増)となっている。

[表Ⅲ-1~10参照]

(※) 北海道自然歩道は令和5年現在整備中であり、利用者数は供用を開始している一部のもの。

IV 参考

1 新宿御苑入苑者数

この調査は、国民公園のうち新宿御苑について新宿御苑管理事務所の報告により、年度毎の入苑者数を取りまとめたものである。

令和5年度の入苑者数は約251万人(対前年比30.0%増)となっている。

[表Ⅳ-1参照]

2 休暇村利用者数

この調査は、(一財)休暇村協会の報告により、年度毎の利用者数を取りまとめたものである。

令和5年度の利用者数は約288万人(対前年比1.5%減)となっている。その内訳をみると、宿泊利用者数は約123万人(同2.9%減)、その他の利用者数は約165万人(同0.3%減)であった。

[表Ⅳ-2参照]

3 国民宿舎利用者数

この調査は、(一社)国民宿舎協会(平成13年度分までは各都道府県)の報告により、年度毎の公営の国民宿舎の利用者数を取りまとめたものである。

令和5年度の利用者数は約175万人(対前年比7.1%増)となっている。その内訳をみると、宿泊利用者数は約57万人(同6.6%減)、休憩利用者は約118万人(同15.2%増)であった。

[表Ⅳ-3参照]

4 全国温泉地宿泊利用者数

この調査は、各都道府県の報告に基づき、年度毎の温泉地の延べ宿泊利用者数を取りまとめたものである。

令和5年度における延べ宿泊利用者数は約1億2,071万人(対前年比9.9%増)となっている。

[表Ⅳ-4参照]

5 令和5年の気象概況

<天候の概要>

令和5年の天候の特徴

- ① 年平均気温は全国的に高く、特に北・東・西日本で記録的な高温となった。
- ② 年降水量は、北日本日本海側が多かった。一方、北・東日本太平洋側と沖縄・奄美で少なかった。東・西日本日本海側と西日本太平洋側では平年並だった。
- ③ 年間日照時間は、北・東・西日本日本海側と北・東日本太平洋側でかなり多く、西日本太平洋側と沖縄・奄美が多かった。
- ④ 夏の平均気温は1898年以降で夏として最も高くなった。
- ⑤ 秋は、西日本太平洋側で記録的な少雨多照となった。

冬（令和4年12月～令和5年2月）

- ① 平均気温は、沖縄・奄美が高かった。一方、北日本で低かった。
- ② 降水量は、東日本日本海側が多かった。一方、北・東・西日本太平洋側と西日本日本海側で少なかった。北日本日本海側と沖縄・奄美では平年並だった。
- ③ 降雪量は、西日本太平洋側でかなり多かった。北・東・西日本日本海側では平年並だった。
- ④ 日照時間は、西日本日本海側と西日本太平洋側が多かった。北・東日本日本海側、北・東日本太平洋側、沖縄・奄美では平年並だった。

春（令和5年3月～5月）

- ① 平均気温は、全国的に高く、特に北・東・西日本でかなり高く、沖縄・奄美が高かった。
- ② 降水量は、西日本日本海側でかなり多く、東日本日本海側と西日本太平洋側が多かった。一方、沖縄・奄美で少なかった。北日本日本海側と北・東日本太平洋側では平年並だった。
- ③ 日照時間は、全国的に多く、北・東日本日本海側でかなり多く、西日本日本海側、北・東・西日本太平洋側、沖縄・奄美が多かった。

夏（令和5年6月～8月）

- ① 平均気温は、夏として最も高い記録となった。北・東・西日本でかなり高かった。沖縄・奄美では平年並だった。
- ② 降水量は、東日本太平洋側と沖縄・奄美が多かった。一方、北日本太平洋側で少なかった。北・東・西日本日本海側では平年並だった。
- ③ 日照時間は、北・東日本日本海側と北・東日本太平洋側でかなり多かった。一方、沖縄・奄美で少なかった。西日本日本海側と西日本太平洋側では平年並だった。

秋（令和5年9月～11月）

- ① 平均気温は、全国的に高く、特に北・東・西日本でかなり高く、沖縄・奄美が高かった。
- ② 降水量は、北日本日本海側でかなり多く、東日本日本海側が多かった。一方、東・西日本太平洋側と沖縄・奄美でかなり少なく、西日本日本海側で少なかった。北日本太平洋側では平年並だった。
- ③ 日照時間は、東・西日本太平洋側、西日本日本海側、沖縄・奄美でかなり多く、北・東日本日本海側と北日本太平洋側が多かった。